



仙台国際音楽コンクールを支える大きな力

仙台フィルハーモニー管弦楽団をもっと知ろう！【シリーズ16】

2015年にスタートしたこの連載も16回目、今回は2022年6月に入団されたオーボエ奏者 高橋鐘汰(しょうた)さんに、お話を伺いました。



仙台フィル マスコットキャラクター (EIMIKO IGARASHI'S PO.)

ご出身の兵庫県猪名川町について教えてください

大阪から25キロ、野生のイノシシやクマも出没する自然豊かな所です。僕が生まれる頃に、子育ては自然豊かな所だと両親が移り住みました。

音楽との出会いについて

4歳の時から近所のピアノ教室に通い始めました。僕が将来音楽の道に進みたいと希望した時に困らないようにと習わせたそうです。

オーボエは小学校4年生の時から、父が勤めている大阪音楽大学の卒業生の方に指導してもらいました。猪名川町立猪名川中学校で吹奏楽部に入部。田舎なのにオーボエ、イングリッシュ・ホルン、ファゴット等楽器が充実している学校でした。

吹奏楽で名高い大阪桐蔭高等学校時代(2011~2013年)の思い出について

部員は3学年全体で180名程、コンクール出場定員は55名なので、オーディションを受けて60名が選抜されます。残りはマーチング等を行います。

高校時代は8~9割部活一色の生活。朝練は家が遠いので参加しませんが、毎日夜9時、時には11時まで練習、年に何回かは宿泊していました。

大阪桐蔭のオーボエは名門です。オーボエは各学年毎年1人か2人、全学年で4人程の少数精鋭部隊で、僕は吹奏楽部8回生でしたが、僕までの世代で僕を含めて3人がプロになっています。

ただ、高校時代は期待されながら全く思うように吹けず、伸びず苦しみがいた時期でした。

高校卒業後、ドイツの音楽大学に留学されたのはなぜですか

高校在学中、京都市立芸術大学の高山郁子先生に学んでいました。そのため同大学への進学を考えていました。3年生の時、草津夏期国際音楽アカデミーで講師トーマス・インデアミュレ氏のレッスンを受けました。「京都市立芸術大学で高山先生に師事し、それからトーマス先生の所に行きたい」という話をしたら、「定年が近いから早く来るように」と言われ、がらっと進路が変わりました。二人の先生に出会えたことが、私の音楽人生の大きな転機であったと思います。

大学では、和声学や音楽学等理論科目が多く、必要とされるレベルのドイツ語習得のために10ヶ月位かかり、高校卒業後1年半後にカールスルーエ音楽大学に入学。日本のコンクール挑戦は大学入学後すぐにスタートしましたが、一次選考で落選の状況がしばらく続きました。結果が出るようになったのは3年生の頃からです。



【高橋鐘汰さん プロフィール】

1995年、兵庫県出身。私立大阪桐蔭高等学校を卒業後、渡独。カールスルーエ音楽大学を経て、フライブルク音楽大学大学院に進学。これまでにオーボエを土井恵美、中山和彦、古部賢一、高山郁子、トーマス・インデアミュレ、ルーカス・マシアス・ナヴァッロの各氏に、イングリッシュホルンをフロリアン・ハーゼル氏に師事。第12回国際オーボエコンクール・東京 奨励賞受賞、第71回ブラハの春国際音楽コンクール 審査員特別賞受賞。

仙台フィルへの入団の経緯と入団後の印象について

僕は留学当時から日本で働きたいと思っていました。コロナ流行で帰国した時期はオーケストラの入れ替え・世代交代の時期と重なり、団員の募集がすごく増えていました。個人的に仙台フィルとは全く関わりはありませんでしたが、挑戦したところ有難いことに受かりました。ポジション的にはセカンド・オーボエですが、首席代行の立場でもあり、イングリッシュホルンも吹いてもらいますという内容については満足しています。すごく穏やかで、アットホームな雰囲気。本当に居心地の良いオーケストラです。

第8回仙台国際音楽コンクールで共演されていたかについて

僕もまだ26歳なので、今後もコンクールに挑戦したいと改めて思いました。ブラハの春国際音楽コンクールに本選まで行きオーケストラと共演はしましたが、数字のついた賞は頂けず特別賞でした。

今回、オーケストラ側から見ることができ「こういう風にオーケストラとコミュニケーションが取れたら賞のレベルが上がったのだろうなあ」とすごく勉強になりました。本選の6名はすごくコミュニケーションの取り方が上手な方が多かったのが印象的でした。なかでもピアノ部門第2位ヨナス・アウミラーさんとはブラームス第1番の協奏曲で共演しましたが、しぐさや体の動きのタイミングなどで音楽性を伝えるのではなく、音色の流れによって「オーケストラにこうやってほしい」といったニュアンスが伝わってきたので、彼との共演は楽しかったし、個人的には特に好きでした。

発行：第8回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア

【コンクール公式Twitter】 @sendai_simc 【ボランティアブログTwitter】 @simc_volblog

問合せ：仙台市民文化事業団音楽振興課(仙台国際音楽コンクール事務局) Tel: 022-727-1872 / e-mail: info@simc.jp / URL: https://simc.jp

SENDAI INTERNATIONAL MUSIC COMPETITION for Violin & Piano



仙台国際音楽コンクールニュース

コンチェルト Concerto



Vol.8-7

(2022.9.16 第8回コンクール関連 第7号)

インタビュー 佐藤元洋 さん (第7回仙台国際音楽コンクール ピアノ部門第4位)

仙台市の市制施行133周年記念コンサート(7月4日開催)のソリストとして来仙された、佐藤元洋さんにお話を伺いました。

2016年から留学されているベルリン芸術大学での生活について教えてください

大学院の修士課程で勉強していますが、実技系のカリキュラムが主で、レッスン以外は学生の自主性に任されています。1週間に一回、師事するビョルン・レーマン先生からのレッスンを受け、それ以外は自主練習や、学生同士で室内楽の練習をしたりしています。以前は大学の練習室は空き次第使えるシステムだったので、待ち時間の間に学生同士でコミュニケーションを取っていましたが、コロナの影響で予約制になったことで、そういったコミュニケーションが減ったことは寂しく感じます。家にもピアノはありますが、防音室ではないこともあり、大学に毎日行って練習をしています。

今はアジア系の留学生が多く、国際色豊かでいろいろな国の文化に触れる機会があって面白いです。また自分が入学した当初はクラスで日本人は私1人だけでしたが、今は10人ほどと大幅に増えました。

食事についてはほぼ毎日ご飯を炊いて食べています。日本米も売っていますが高価なので、イタリア産のコシヒカリや、ミルヒライスという、本来はデザート用に甘くして食べるお米が日本米に近いので代用したりと工夫しています。

ベルリンでは日本にいたころとは比べられないくらい、たくさんコンサートに行くようになりました。東京でもたくさんのコンサートが行われていますが、東京での学生時代は学業が忙しくて気持ちに余裕がなかったこと、学生券はすぐ売り切れてしまうこともあり、頻繁には行けませんでした。

ベルリンでは30歳までが対象の「Classic Card」という、ほとんどの演奏会が10ユーロで聴ける制度があるので、今のうちにたくさん通っておこうと思っています。近所にオペラ劇場があり、ワーグナーの「ニーベルングの指環」の全曲上演があった時は4日間通いつめました。席に空きがあれば本来なら200ユーロ以上するような良い席でも10ユーロで見ることができると、すごく恵まれた環境だと思っています。

第7回仙台国際音楽コンクール(SIMC)の思い出

SIMC出場は自分のこれまでの経験のなかでも大きなものでした。コンクールという皆がビビリとした独特な雰囲気があるものですが、仙台はスタッフの皆さんの雰囲気が温かくて、力をもらえる環境だったと思います。

ファイナルまでに3回オーケストラとの共演ができたことで幅広い勉強ができ、貴重な経験となりました。今年の第8回の配信も見ていましたが、出場者に寄り添う仙台フィルのサポート力が素晴らしいと改めて思いました。

今回の市制施行記念コンサートではコンクール以来3年ぶりの仙台フィルとの共演です。コンクールの時はオーケストラの方と話す機会がありませんでしたが、今回の共演でお話することができて嬉しかったです。

SIMCはコンチェルトが注目される場所ではありますが、

ピアノ部門の予選では独奏40分のプログラム選曲が出場者に委ねられている部分が多いので、そこで自分をどうアピールするかを問われているな、と今回第8回の配信を客観的に視聴したことで改めて感じました。予選のソロでのアピールと、セミファイナル以降のオーケストラとの共演で、それぞれ違う音楽的アプローチを見せなければいけないところも特徴的だと思いました。



佐藤元洋さん

仙台の印象は?

静岡県出身ということもあり、SIMCに出場するまでは、東京より北の地域に行く機会がほとんどありませんでした。コンクールをきっかけに仙台に縁を持つことができ、コンクールが温かな雰囲気だったこともあり仙台の街にも良い印象を持っています。仙台は緑が多く東京とは違う空気感があって、ほっとする場所だと感じます。コンクール出場時は観光ができなかったため、これからプライベートでいろいろ巡ってみたいです。仙台はコンクールや「せんくら」で、クラシック音楽の振興に力を入れている点も良いなと思います。地方ではコンサートで生の演奏に触れる機会が少なくなってしまうがちのところ、多くの機会を提供してくださっているのはありがたいです。

今後の目標を教えてください

ソロのコンサート以外にも、同じベルリンで学ぶ仲間と一緒に日本で演奏活動ができればいいなと思っています。仙台でも演奏会の企画ができればと考えています。コンクールへの挑戦も大体30歳くらいまでが目標というつもりですが、残り数えるほどしか出られないと思いますが、チャンスがあれば挑戦して成長の糧としていきたいです。

これからコンクールに挑戦する音楽家へのアドバイス

自分が思うように弾けたと思って評価されなかったり、その逆もあつたりします。結果が思うように出ないことで落ち込むこともあります。結果に関わらず、コンクールに参加する意義はあると思います。コンクールに出場して、その土地で演奏することでその後につながる交流ができたり、出場するための準備を通して得られる経験もあるので、賞を取るだけでなく、経験を豊かにするものとして参加することにも、大きな価値があると思います。

～ 第8回仙台国際音楽コンクール 審査結果 ～

「楽都仙台」が誇るイベントのひとつ、第8回仙台国際音楽コンクールが終了しました。今回は、過去最多となる41の国と地域から573名もの応募があり、2022年5月から6月にかけて仙台で開催された本選では、予備審査を通過した68名（ヴァイオリン部門は11の国・地域の37人、ピアノ部門は13の国・地域の31人）が卓越した演奏を披露しました。日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）で行われた審査の様子は、会場で一般にも公開されたほか、オンラインにてライブ配信とオンデマンド動画配信も行われ、世界中の視聴者を魅了しました。コンクール審査委員による厳正な審査の結果、入賞者となったのは以下の方々です。

< ヴァイオリン部門 >

第1位 & 聴衆賞2日目
中野 りな NAKANO Lina
(日本) 2004年生まれ



【ファイナル演奏曲】
モーツァルト ヴァイオリン協奏曲 イ長調 K219
バルトーク ヴァイオリン協奏曲 第2番 Sz112

東京都出身、桐朋女子高等学校音楽科3年（在学中）。2021年の第90回日本音楽コンクール第1位、第72回全日本学生音楽コンクール中学校の部全国大会第1位をはじめ日本国内のコンクール、ベルギーや中国など国際コンクールでの受賞歴も多数。2015年にTV番組「題名のない音楽会～未来の楽器～」に出演、東京フィルハーモニー交響楽団と共演。今年「あの神童たちの今」とした同番組の続編にも出演している。森川ちひろ氏、ポール・ロチェック氏に師事し、現在は辰巳明子氏に師事。

第2位
デニス・ガサノフ
Dennis GASANOV (ロシア) 1994年生まれ

【ファイナル演奏曲】
モーツァルト ヴァイオリン協奏曲 二長調 K218
ショスタコーヴィチ
ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 op.77

第2位
マー・ティエンヨウ
MA Tianyou (中国) 2000年生まれ

【ファイナル演奏曲】
モーツァルト ヴァイオリン協奏曲 二長調 K218
シベリウス ヴァイオリン協奏曲 二短調 op.47

第4位 ホン・ソンラン (韓国) 2001年生まれ	第5位 橋和 美優 (日本) 2001年生まれ	第6位 & 聴衆賞3日目 中村 友希乃 (日本) 1995年生まれ
---	---	---

審査委員奨励賞
松岡 井菜
(日本)
1993年生まれ

聴衆賞1日目
クリスティーン・ウー
(アメリカ)
1995年生まれ

< ピアノ部門 >

第1位
ルウオ・ジャチン LUO Jiaqing
(中国) 1999年生まれ



【ファイナル演奏曲】
モーツァルト ピアノ協奏曲 八長調 K503
プロコフィエフ ピアノ協奏曲 第2番 短調 op.16

湖南省出身。武漢音楽学院附属中学校でヤン・ヒュー氏、オーバーリン音楽院でロバート・シャノン氏、現在はニュー・イングランド音楽院でダン・タイ・ソン氏に師事している。中国国内のコンクール、国際コンクールでの受賞歴多数。上海、青島、広州、武漢、湖南など中国各地のほか2015年にフランス・パリのコルトー・コンサートホール、2016年にはアメリカ・ハンボルト州立大学でリサイタルを開催。ミネソタ管弦楽団、中国フィルハーモニー管弦楽団、武漢フィルハーモニー管弦楽団、フォートワース交響楽団など共演歴も多数。

第2位 & 聴衆賞1日目
ヨナス・アウミラー
Jonas AUMILLER (ドイツ) 1998年生まれ

【ファイナル演奏曲】
ベートーヴェン ピアノ協奏曲 第3番 八短調 op.37
ブラームス ピアノ協奏曲 第1番 二短調 op.15

第3位
太田 糸音
OTA Shion (日本) 2000年生まれ

【ファイナル演奏曲】
モーツァルト ピアノ協奏曲 八短調 K491
プロコフィエフ ピアノ協奏曲 第3番 八長調 op.26

第4位 & 聴衆賞2日目 ジョンファン・キム (ドイツ) 2000年生まれ	第5位 & 聴衆賞3日目 キム・ソンヒョン (韓国) 2002年生まれ	第6位 ジョージ・ハリオン (イギリス) 2001年生まれ
---	---	---

審査委員奨励賞
神原 雅治
(日本)
2003年生まれ

～ コンクールサポートボランティア 活動報告 ～

第8回仙台国際音楽コンクール（以下、SIMC）も無事に終わりました。コンチェルト読者の皆様は、YouTubeの動画(9月30日まで公開)を視聴されながら、熱気にあふれたコンクールの余韻に浸っていらっしゃるのでしょうか。さて、SIMCにおける私たちボランティアの活動にも一定の評価を頂いておりますが、本コーナーでは4部門（出場者サポート、会場運営、広報宣伝、ホームステイ受入れ）のボランティアに、今回の活動を振り返っていただきました。コロナ禍にあって前回とは異なる活動を余儀なくされましたが、どの部門も様々な工夫を凝らしてコンクールを盛り上げました。縁の下の力持ちたるボランティアの活動を是非お読みください。

■ 出場者サポート部門 近江千佳

今回、活動のメインとなる「交流サロン」の運営はできなかったのですが、出場者と接する機会は少なかったのですが、練習会場の担当や会場アナウンス、学校訪問ミニコンサートの通訳等の活動はできました。また、新たに1Fフロアに「総合案内」を設けて、出場者だけではなく一般のお客様のお問い合わせにも対応することができました。そして毎回好評の「出場者への応援メッセージ」も大変多くのお客様よりいただき、無事に出場者へお届けすることができました。苦労した点は、事前の研修や準備が思うようにできず、マニュアルや関係資料、連絡事項などメールや郵送での対応となり、事務局の担当の方々には大変ご負担をかけてしまったところです。新しくボランティア登録をしてくださった方には大変分かりにくく、ご不安をおかけする事となりましたが、ベテランのボランティアとシフトを組むことによりフォローをして、臨機応変に対応することができて良かったと思います。今回のボランティア活動について反省点やご意見のアンケート結果が集計されているので、それを参考に改善点や新しいアイデアも出てくると思います。



次回コンクールに向けて、出場者やご来場の皆様にとって更により良い運営が出来るよう検討したいと思っています。ご興味のある方は是非ボランティア活動に参加していただき、一緒に感動を分かち合えたら嬉しいです！

■ 広報宣伝サポート部門 川村明子

レギュラー活動である広報誌「Concerto」の編集会議は、密を避ける対策として事務局での現地参加とオンライン参加を併用して行いました。会議は平日の夜に行っていますが、これまで仕事の都合などで出席が難しかったメンバーも、自宅や外出先からオンラインで参加できるようになったことで以前よりも出席率が上がり、良い変化となりました。

これまでコンクール期間中に発行する特別号のため、ヴァイオリンとピアノ部門それぞれ予選の演奏後に出場者へインタビューをしていましたが、今回は感染防止対策として対面でのインタビューは



行わず、オンラインアンケートに入力してもらう形式にしました。文章で回答してもらうことで、対面インタビューで聞き取って文章化するよりも外国語の翻訳作業が早く確実にできた点と、出場者の都合が良い時に回答をしてもらえる点はメリットでした。ただ、任意回答のため欲しい人数分の回答を集めるコントロールが難しかった点は改善の余地がありました。今後は対面インタビューとオンラインを併用することで、より多くの出場者の声をお届けできればと考えています。

■ 会場運営サポート部門 貫洞正一

元々、音楽が好きで音楽や映像に関わる仕事をしていましたが2006年に辞めました。その年に仙台クラシックフェスティバル（せんくら）が始まり、2007年から会場運営のボランティアを始めました（※）。人生初のボランティア活動です。間近で音楽に触れることができる楽しい時間が始まりました。合わせて活動を通して素敵な仲間に出会うこともできました。コンクールも第4回（2010年）から活動に参加しています。第3回ヴァイオリン部門6位の長尾春花さんが2回目挑戦をしたときでした。終了後に会える機会があり「優勝ではなかったのは残念ですが素晴らしい第3位入賞ですね」とお声がけしたのを覚えています。会場運営の中でも私は外案内を担当することが多く、出場者の様々な姿をみることもできます。緊張しながら前日の練習にきている方、自分の審査が終わって他の出場者の演奏を聴きに來る方、ほっとして家族や先生と話している方など。第8回コンクールも様々な国から多くの若い音楽家が集まり素敵な演奏を披露していました。



これからも彼らが仙台から巣立っていくのを応援していきたいと思っています。もちろん仙台に帰ってきたときはしっかりサポートします。（※）会場運営サポート部門はせんくらでも活動しています。

■ ホームステイ受入れ部門 グリープス裕香

あと2ヶ月でコンクールという通常なら受入れ出場者決定の連絡を受ける頃、今回はホームステイ中止の連絡が。いつもなら大好評の当部門名物、日本文化紹介の日の郷土料理お振る舞いもなし。コロナ禍で私たちの活動は事実上なくなってしまいました。そんな中、前回我が家にホームステイしたフランスのジョスカン・オタルさん（ピアノ部門）が再出場。この3年間幾度もメールのやりとりをしてきた彼に再会し、演奏もライブで聴きました。審査が終わった後、感染には十分気を付け、限られた時間でしたが観光や買い物、食事など共に過ごすことができました。今回、出場者の皆さんにホストファミリーがいなかったことをとても残念に思っていた彼。二度目の出場に加え最年長ということもあって、他の出場者たちに目を配り、彼なりのサポートをしていた様子に胸が熱くなりました。まだ若い出場者も多かったため、3年後、6年後再出場し、ホストファミリーとの交流も楽しんでほしいと心より思います。

